

## 盆栽

永見 裕正

盆栽とは、根張り、立上り、幹のコケ具合、枝順などの総称であり、その全体の姿を鑑賞するものです。

また、その形によって、直幹、双幹、模様木、懸崖、文人木、株立ち、などの様々な「樹形」があります。

皐月についても、多種多様で数え切れないほどの品種があります。

私が皐月盆栽を手掛けるようになってから早いもので30年くらいが経ちましたが、未だに自分の思い描く盆栽の姿には至っておりません。

なお、今回ご紹介いたします盆栽は、次のとおりです。

### 1. 日光一直幹



### 2. 華宝一模様木



3. 大杯一双幹



4. 山の光一模様木



5. 山の光（上記4.が開花した折のもので、撮影は背面からです）



## (樹形についての説明)

- ・ 直幹（ちよくかん）とは、幹が上に向けて垂直に一直線に伸びている姿のものをいいます。幹が根元から樹芯へと徐々に細くなっていくのが理想で、これを「コケ順がよい」という。また、枝が順序よく出て、枝と枝の間隔が上に行くに従い段々と狭くなっていく状態を「枝順がよい」といいます。
- ・ 双幹（そうかん）とは、一株の根元から二本の幹が出ている姿のものをいいます。この二本の幹の高さや太さの加減が樹形のポイントとなります。
- ・ 模様木（もようぎ）とは、幹が左右に曲線を描くように曲がっている木のことです。こけ順が素直で、模様が前後左右にバランスよく曲がっていることが重要だといわれています。
- ・ 懸崖（けんがい）とは、海岸や溪谷などの断崖絶壁に生えて、幹が下垂して生育を続ける樹木の姿を表現したものをいいます。
- ・ 文人木（ぶんじんぎ）とは、細幹で枝数が少なく枝嵩も小さいものをいいます。中国の南画に見られるような形であることから、この名が付いたといわれています。
- ・ 株立ち（かぶだち）とは、数本の細幹を株元から藁生させたものをいいます。一般的には、中心の幹を扇状に枝葉を広げた形になるように仕立てます。